田園空間博物館

# サテライトガイドブック

ホームページ
QRコード

那須野が原西部田園空間博物館

# 田園空間博物館とは

田園空間博物館は、那須野が原西部地区の豊かな自然や湧水・疏水・開拓にまつわる史跡・伝統文化などを田園空間に広がる展示物とみたてることで、地域そのものを『屋根のない博物館』として考えています。那須塩原市では、地域住民とともに、これらの保全・復元・活用をはかることで、美しい田園空間の創造と地域の活性化を目指しています。

## 目次


■開拓の京（みやこ）ルート（三島地区コミュニティ）…… p.2
■水と街道散策ルート（横接地区コミュニティ）…… p.3-4
■時計塔を眺める街並みルート（中央地区コミュニティ）…… p.5-6
■那須開墾社ゆかりのルート（南地区コミュニティ）…… p.7-8
■サテライトマップ＆フットパス一覧 …… p.9-10
■那須疏水の郷ルート ・ ■那須疏水さわやかルート（西地区コミュニティ）…… p.11-12
■ふるさと湧水群ルート（狩野地区コミュニティ）…… p.13-14
■自然ふれあい将軍ルート（大山地区コミュニティ）…… p.15-16
■行事・まつり・伝統文化、各地区の名人たち …… p.17-18
■トピック ①『世界かんがい施設遺産』に登録された那須疏水…p.4　②那須野が原の歴史…p.8


※各ページのPマークは「駐車場あり」、マークは「トイレあり」を示しています。　※〈日本遺産〉は「日本遺産構成文化財」の略です。

## 田園空間博物館総合案内所（那須野が原博物館内）

田園空間博物館総合案内所は、田園空間博物館のサテライト（展示物）やフットパス（巡回ルート）等を紹介するインフォメーションルームと、那須野が原開拓関係の講座等を行う研修室、田園空間博物館運営協議会等の活動拠点になる団体活動室などからなります。

また、総合案内所の東側と西側には三島農場事務所にまつわる「三島農場事務所跡の水辺」と「三島農場事務所跡のヤウラ」の2つのサテライトがあります。

### 三島農場事務所跡の水辺

この水辺は那須野が原博物館東側にある親水空間で、那須野が原で最初の大農場である肇耕社（ちょうこうしゃ）を前身とする三島農場の跡地に、農場事務所の池や、那須疏水水路の石積み、河川横断部の5角形石積みなど、当時を物語る施設を復元しています。また、明治期に千本松農場で使用したアメリカ製大農具の展示や水くみ体験などができるようになっています。

### 三島農場事務所跡のヤウラ

三島農場のヤウラは那須野が原博物館西側にある防風林で、三島農場の事務所にあったものです。ヤウラでは散策しながら復元された土手（土塁）や石塚（石ぐら）を見ることができます。那須野が原は冬から春にかけて強い季節風（からっ風）が吹き、畑の土や作物などを吹き飛ばし、時には家をもこわしてしまうほどで、屋敷の北西側に風よけのための土手やヤウラがつくられました。土手やヤウラは那須開墾社第一農場・第二農場跡や大山別邸などにも残されています。また、那須野が原で、表土が薄く石がすぐにでてきてしまうところでは、開拓に当たってはまず鍬先にあたる石を取り除くことから始めました。その石を積み上げたものが石塚で、石ぐら、石ぼっちとも呼ばれました。

# 開拓の京(みやこ)ルート(三島地区コミュニティ)

## ◎三島地区コミュニティセンター(三島公民館) P

三島地区コミュニティセンターは、三島小学校区内にある6自治会で構成され、1987年(昭和62年)に発足した三島地区コミュニティの活動拠点です。三島地区コミュニティは、明治期の三島農場所有地にあたります。また、田園空間博物館のフットパス「開拓の京(みやこ)ルート」の出発拠点でもあります。

三島地区コミュニティでは、「子供おはやし」「しめ飾り講習会」など数多くの行事を行い、明るく、住み良く、将来に希望の持てる地域づくりを目指しています。

## ❶三島神社 P

三島神社は、1906年(明治39年)に移住者たちにより創建され、三島農場主三島通庸(みちつね)と三島家累代の人々、また開拓の先人142人を柱として祀っています。

現在の社殿は、1909年(明治42年)に改築されたもので、毎年10月第2日曜日に例大祭が行われます。

また、社務所の脇には通庸の片腕と言われ、那須野が原開拓に活躍した柴山景綱の碑があります。

## ❷ボーイスカウト那須野営場

那須野営場はボーイスカウト日本連盟第四代総長の三島通陽(みちはる){三島通庸(みちつね)の孫}が土地を提供したもので、敷地は5.3haあり、杉や松の古木におおわれた自然に恵まれた環境にあります。

場内には、有名な那須与一のトーテムポールの他、コース広場、スカウト広場、カブ広場、宿泊研修棟などがあります。

1957年(昭和32年)には、隊長のための指導者養成コースが設定されました。

## ❸三島開墾紀恩碑

三島開墾紀恩碑(きおんひ)は、1880年(明治13年)に那須野が原開拓に着手した肇耕社(ちょうこうしゃ)の創設者　三島通庸(みちつね)の偉業をたたえるために、移住者や関係者により1922年(大正11年)に建てられたものです。

碑文は宮内省御用掛(ごようかかり)文学博士　西村時彦によるものです。

紀恩碑のあるこの地は、陸羽街道(旧国道4号)と塩原街道(旧国道400号)との交差する三島農場の中心でした。

## ❹さんさん通り

さんさん通りは、1987年(昭和62年)に子供たちが自然と触れ合える体験学習の場を作ることを目的に整備された400mの通学路です。

三島小学校では、水土里(みどり)ネット那須野ヶ原や田植唄保存会などの協力を得て「田んぼの学校」で古代米を育て、「めだかの学校」ではメダカの生態学習を行うなど自然環境の大切さを学んでいます。

## ❺旧狩野村役場跡

狩野村は、1889年(明治22年)三島村など11村が合併して誕生しました。当時の村役場は、現在の三島4丁目　塩原街道(旧国道400号)沿いにありました。その50年後の1939年(昭和14年)には、800mほど南東、現在の三島1丁目の塩原街道沿いに新築移転されました。この新しい役場は、木造2階建て延べ面積116坪(約382㎡)、敷地面積406坪(約1,342㎡)ありました。

1955年(昭和30年)2月には、狩野村と西那須野村とが合併して旧西那須野町が誕生しました。

## ❻南郷屋公民館温泉神社と原街道道標 P

南郷屋公民館にある温泉神社は1990年(平成2年)公民館新設に伴い東町の旧公民館跡地から移転されたもので、創建時代は不詳ですが大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)を祀っています。

社殿の前には、1752年(宝暦2年)に建てられた下部に三猿が刻まれた庚申供養塔(こうしんくようとう)があります。

また、この塔の横に「左うすば」「右石上」と刻まれた石碑があり、原街道の道標であったことがわかります。

## ❼東赤田の馬頭観音

馬頭観音は、仏教においては衆生の無智・煩悩を排除し、諸悪を毀壊する菩薩です。

この馬頭観音は、死んだ馬を供養するために建てられた石碑で、馬頭観音の文字が刻まれています。この馬頭観音は、東三島地区にあったものが移設されたものです。

農作業のほとんどを人力で行っていた時代、馬は牛とともに田畑を耕す農具を引っ張るために飼育され、同じ屋根の下で生活する家族同様の大切な動物でした。また、赤田地区では子馬を「ジャキ」と呼んで可愛がりました。

サテライトマップ p9-10

# 水と街道散策ルート（横接地区コミュニティ）

## ◎接骨木公民館

旧塩原町の横林、接骨木地区をあわせて横接（おうせつ）地区と呼び、横林小学校区内の2自治会が田園空間博物館のサテライトエリアとなっています。横接地区には、他のコミュニティと異なり「コミュニティ」組織がありません。そのため田園空間博物館では、接骨木（にわとこ）公民館を拠点施設と位置付け、フットパス「水と街道散策ルート」の出発拠点としています。

横接地区は、会津中街道が通った江戸時代以前から続く歴史の古い地域です。

## ❶接骨木の常夜灯・石仏・石碑

常夜灯と石仏・石碑は、接骨木公民館の前庭にあります。常夜灯は、石造の燈籠で、4段の石台の上に置かれています。また、慶応年間（1865年～）に建てられたことや「子安地蔵尊」、「接骨木女人中」の文字が刻まれています。石仏・石碑は、念仏供養塔、地蔵菩薩、庚申塔、六地蔵、十九夜塔（月待塔）等が並んでいます。石仏・石碑がなぜ、ここにあるのかは不詳ですが、江戸時代に安楽院という寺院があったと伝えられていることと関係があると思われます。

## ❷那須連山のビューポイント

那須連山のビューポイントは、県道折戸線を接骨木地内に入って200mほど行ったところにあります。このビューポイントからは、茶臼岳をはじめとする那須連山とその奥に連なる大倉山、三倉山等の雄大な姿が望めます。特に冬晴れの日には、雪をかぶった山々が青天に映え、日の出や日の入りの時刻には、ピンク色に染まった山々が感動的です。

## ❸接骨木の一里塚

接骨木の一里塚は、かつての会津東街道にあった一対の一里塚です。1970年（昭和45年）に旧塩原町の文化財に指定されています。片方の塚には杉が、もう片方の塚には桜が植えられています。杉の木はかつて落雷にあい、そのあとが痛々しく残っています。田園空間博物館整備事業の一環として、駐車場整備及び塚の周囲を整備しました。

## ❹地方競馬教養センターと桜並木

地方競馬教養センターは、1964年（昭和39年）に創設された地方競馬全国協会の騎手養成機関です。ここを巣立った騎手は、全国で開かれる地方競馬で活躍しています。約30万㎡の敷地内には生徒のための施設のほか厩舎や診療棟など馬のための施設も整備されています。また、敷地内には桜の並木があり、4月の開花時には生徒による観桜乗馬が行われます。施設見学も受け付けていますので、希望される方は地方競馬教養センターまでご連絡ください。【問い合わせ】☎0287－36－5511

## ❺接骨木の愛宕神社

接骨木の愛宕神社は、1748年（延享5年）6月に修復した記録がありますが、創建年代は不詳です。石の宮として造営され、1779年（安永8年）には、現在の石段が造営されました。現在は、1805年（文化2年）建立の山神社と1828年（文政11年）建立の雷神社、1862年（文久2年）建立の水天宮が合祀されています。

## ❻接骨木の六地蔵

六地蔵は、六面体地蔵尊のことで、「六道さん」と呼ばれています。六地蔵は、六面石幢（ろくめんせきどう）という石塔形式で、六角形の石の面それぞれに地蔵尊が彫られています。六地蔵の建立の経緯や年代は不明です。また、隣には如意輪観音2基が立っていますが、こちらも建立の経緯や年代は不明です。

## ❼高原山のビューポイント

高原山のビューポイントは、横林地区と千本松地区の境にあり、千本松浄水場の北側にあたります。広大な牧草地の真ん中に「コブシ」の大木が高原山をバックに1本立っています。特に「コブシ」の花が咲く4月下旬は、高原山に残雪も残り早春の風景をカメラに収めようと写真愛好家がおとずれます。なお、高原山は釈迦ケ岳（標高1795m）を代表とする山々の総称です。

## ❽那須疏水・蟇沼用水の立体交差

那須疏水・蟇沼用水の立体交差は、横林地内の県道と那須疏水が交差する地点より、疏水沿いに南側に200mほど行ったところにあります。当初は、那須疏水と蟇沼用水の水利慣行の違いから、相互に水を利用できない構造でした。1967年（昭和42年）に着手した国営那須野原総合農地開発事業により、相互に水の利用調整が可能な構造となっています。

## ❾那須疏水蛇尾川サイフォン出口

蛇尾川サイフォン出口は、那須疏水が蛇尾川を横断した所にあり、サイフォンの原理により出口から湧き出しています。かつての那須疏水は、河床の下に五角形の石積みのトンネルを造り横断していました。現在も、この石積みのトンネル出口はかつてのまま保存されており、トンネルの一部は展示されています。今のサイフォン出口は1967年（昭和42年）に着工した国営那須野原総合農地開発事業により造営されたものです。田園空間博物館整備事業の一環として駐車場のほか周辺の環境整備を行いました。

## ⑩蛇尾川の河原 〈日本遺産〉

蛇尾川(さびがわ)は、「じゃびがわ」とも呼ばれ、大佐飛山を源流とする大蛇尾川と日留賀岳を源流とする小蛇尾川との2つの源流をもちます。扇状地の那須野が原を流れる蛇尾川は、大雨の降った時以外その流れは折戸地内から伏流し、大田原市今泉地内で湧出するという水無川です。そのため、河原は、常に大小の玉石がゴロゴロした殺伐とした光景を見せてくれます。

## ⑪会津中街道一里塚 P

会津中街道一里塚は、県道折戸線と那須疏水が交差する100m手前にある1対の一里塚です。会津中街道は、1683年(天和3年)におきた日光大地震により出現した五十里湖により、会津西街道が通行できなくなったため、会津藩の廻米の輸送用街道として1695年(元禄8年)に整備されました。田園空間博物館整備事業では、雑木林と牧草地に埋もれていた一里塚を保全するため、一里塚周辺用地を購入し駐車場整備や植栽を施しました。

## ⑫念仏石碑

念仏石碑は、横林地内を流れる蟇沼用水沿いに立っている12基の石仏・石碑のことです。石仏・石碑には、1738年(元文3年)建立の念仏塔、1742年(寛保2年)建立の地蔵尊、1796年(寛政8年)建立の庚申供養塔、1871年(明治4年)建立の月待塔(十九夜塔)などがあります。建立年が不明なものとして、馬頭観音、軍馬観音、地蔵尊、如意輪観音もあります。12基の石仏・石碑が一か所に建てられた沿革については不明です。

## ⑬横林の温泉神社

横林の温泉神社は、1619年(元和5年)蛇尾川の洪水に悩まされていた東泉喜左衛門が村人とともに那須神社より分神し、洪水の鎮護と五穀豊穣を祈願して建てたものです。現在の社殿は、1968年(昭和43年)に改築したもので、大名己貴命(おおなむちのみこと)を祀っています。

## ⑭接骨木街道沿いの蟇沼用水

接骨木街道沿いの蟇沼用水は、1967年(昭和42年)に着手した国営那須野原総合農地開発事業により、そのほとんどがコンクリートの水路となりましたが、昔のままの姿を今に残す石積みの水路です。蟇沼用水は、慶長年間(1596年～)に開削され、初め「接骨木堀」と呼ばれました。その後、旧西那須野町石林地内まで延長され「蟇沼堀」と呼ばれるようになり、1771年(明和8年)大田原城まで引かれ、大田原城内の飲用水として使用されたため沿線の農民が利用することはできませんでした。沿線の農民が利用できるようになったのは、明治に入ってからで、1900年(明治33年)に現在の用水堀ができました。

## ⑮会津中街道跡と道標

会津中街道は、1683年(天和3年)におきた日光大地震により出現した五十里湖により、会津西街道が通行できなくなったため、会津藩の廻米の輸送用街道として1695年(元禄8年)に整備されました。道標は、横接地区郷土史研究会が郷土史の完成を記念して1976年(昭和51年)に建てたものです。

## ⑯接骨木の八坂神社

接骨木の八坂神社は、接骨木地区のほぼ中心にあり1890年(明治23年)に創建されました。古来より農家のつくり神様として毎年7月15日に収穫したものをお供えし、その年の豊作を祈願しています。なお、現在の社殿は、1980年(昭和55年)に改修されたものです。

## ⑰接骨木の温泉神社

接骨木の温泉神社は、接骨木公民館の裏にあります。建立の年代、経緯は不明ですが、接骨木が慶長年間(1596年～1614年)大田原藩第15代藩主　大田原晴清の代に大田原藩の所領となった以降、代々の藩主がこの神社を崇拝したと伝えられています。1741年(寛保元年)に上棟した記録と1800年(寛政12年)ほか3回遷宮の記録が地元に残っています。祭神は、少彦名命と大名己貴命です。

## トピック①『世界かんがい施設遺産』に登録された那須疏水

日本三大疏水(他に安積疏水、琵琶湖疏水がある)のひとつである「那須疏水施設群」が、2017年(平成29年)10月10日、国際かんがい排水委員会(ICID)において栃木県内初の世界かんがい施設遺産として登録されました。(世界で60施設、その内日本では31施設を認定)

那須疏水は開削から130年以上経過した今日、広大な那須野が原の大地をうるおし、水稲・畑作・酪農のさかんな土地として地域経済、ひいては栃木県の農業を支える重要な施設です。

那須疏水は西岩崎頭首工(那珂川からの取り入れ口)をスタートとして、サイフォン出口、赤田調整池、那須疏水探訪の小径、第三分水等々、サテライトとしても見どころいっぱいです。

サテライトマップ p9-10

# 時計塔を眺める街並みルート（中央地区コミュニティ）

## ◎中央地区コミュニティセンター（西那須野公民館）

中央地区コミュニティセンターは、東小学校区内にある5自治会で構成され、1997年（平成9年）に発足した中央地区コミュニティの活動拠点です。また、田園空間博物館のフットパス「時計塔を眺める街並みルート」の出発拠点でもあります。

中央地区コミュニティでは、本部並びに7部会（高齢者、女性、青少年、文化、体育、まちづくり、広報編集）が協力し合って数多くの行事を行い、住民相互の連帯感を深め、明るい街づくりを目指しています。

## ❶西那須野公民館の胸像

開拓者の胸像は、那須野が原開拓に大きな功績のあった印南丈作（じょうさく）、矢板武、三島通庸（みちつね）の胸像です。1967年（昭和42年）西那須野町立中央公民館（現西那須野公民館）の落成と町制施行80年を記念して除幕され、以降公民館ホールに展示されています。現在は、3人の胸像に並んで国営那須野原開拓建設事業に大きな功績のあった渡辺美智雄の胸像も展示されています。

## ❷十九夜地蔵尊堂

十九夜地蔵尊堂は、1925年（大正14年）に建立された縦、横、高さ2m四方の地蔵堂で、「十九夜尊」と書かれた額が掲げられており、太夫塚地内にあります。生活の厳しかった開拓の頃の子供の無事成長を祈願し、死産した子たちの霊を慰めるために祀ったと言われています。現在のお堂は老朽化のため、1954年（昭和29年）に改築されたものです。

## ❸淡島神社

淡島神社は、太夫塚地内の小高い丘の上にあり、1908年（明治41年）和歌山県の淡島神社より分社されたものです。開拓のため入植した人たちが、家内安全、子孫繁栄そして農作物の豊穣を祈願したとされています。

かつて大和製糸工場が操業していたころ、女工たちがお参りし、切り髪や針箱を供えたりしたそうです。例祭の3月3日には、針供養が行われます。

## ❹太夫塚神社と庚申塔

太夫塚神社は、太夫塚公民館の脇にあります。三島農場地内太夫塚地区の開拓の中心人物であった小林熊蔵の遺徳を後世に伝えるため、彼を祀る「招魂社」を建立し、1940年（昭和15年）現在の地に移転しました。後に養蚕組合や開拓農家の要望により蚕玉（こだま）神社と水天宮様を合祀し、太夫塚神社と改名しました。

庚申塔は、かつて地区内の信仰の木として崇められていた庚申松が枯死したことから2003年（平成15年）に建立されました。開拓当時、先住の地に伝承されていた庚申講を開講し、豊作や疫病危難の回避を祈願しました。

## ❺開拓苦難の石塚

石塚は、かつて土地を開拓する際に掘り出された石を畑に積み上げたもので、「石ぐら」とも呼ばれています。那須野が原は、扇状地のため各所でこの石塚が積み上げられました。戦後、石塚の石は宅地の敷石等に使用され、現在はほとんど姿を見ることはなくなりました。石塚は那須野が原開拓にあたった人たちの苦労と汗がしみ込んだ苦難の証です。2011年（平成23年）10月、太夫塚地区内の人々の手により私有地にあったこの石塚を大いなる遺産としてそこから太夫塚公民館敷地内に移設されました。

## ❻愛宕神社

愛宕神社は、主祭神は火産霊命（ほむすびのみこと）で、あたご町3−7にあります。鉄道の開通により汽車から出る火の粉でたびたび火災が発生したことから1901年（明治34年）京都の愛宕神社より「火伏せの神」の分神を建立し、その後現在地に本殿・八幡宮・八坂神社・甲子神社が建てられました。1999年（平成11年）9月には本殿、拝殿、社務所を再建しました。例祭当日は神輿の渡御があります。例祭日は9月14日ですが、その前後の日曜日に行われます。

## ❼支所庁舎時計塔と「望」の像

支所庁舎時計塔は、1989年（平成元年）西那須野町役場として建てられました。庁舎には旧西那須野町のまちづくりのテーマ「水と緑と心」が表現されています。前庭とシンボルロードにある水路は地域の人々の生活を支えてきた那須疏水を、庁舎の周りの木々はこの地域にあふれる豊かな緑をイメージしています。そして、住民の心を象徴するのが明日を切り開く音を奏でるスイングベルの時計塔です。また、庁舎の正面には開拓者たちの明日への夢と希望に生きる姿を表現したモニュメントとして「望」の像（昭和42年　南庄作・作）があります。

## ⑧那須疏水ゆかりの黒松

黒松は、西那須野駅西口ロータリーに植えられています。もともとは、西那須野駅西口の跨線人道橋の下を流れる那須疏水の岸に生えていましたが、駅西口整備事業を実施した際に伐採されました。推定樹齢150年と言われ、1886年(明治19年)に西那須野駅(当時は那須駅)が開業した時は、既にあったと言われています。現在の黒松は、2010年(平成22年)ロータリーの完成に合わせて記念に植えられたものです。

## ⑨西那須野駅

西那須野駅は、1886年(明治19年)に東北本線が西那須野まで開通し、那須駅(那須停車場)として開業しました。その後、塩原方面に塩原軌道が、黒羽大田原方面に東野鉄道が開通し、人々の乗降、そして物資の集散など輸送の中心的な役割を果たしました。現在の駅舎は、東北新幹線の建設とともに1980年(昭和55年)に新築され、3代目となります。平成21年度の駅西口広場整備事業により駅舎にエレベーターの設置、広場のロータリー化と歩道橋が作られ現在の形になりました。

## ⑩通り名のある街並み

西那須野駅が開通してから駅を中心に商店街、職人街、映画館など家が建て込み、いつの間にか七つの通り名ができました。駅前通り、さくら通り、そ水通り、一本杉通り、要町通り、五軒町通り、平和通りです。

## ⑪永田区大師堂門碑

西朝日町の大田原街道沿いに「弘法大師、1928年(昭和3年)4月22日」と刻まれた門碑が建っています。細い道の奥にかつて下野新四国八十八箇所霊場の第十七番札所として大師堂がありました。初期の頃は停車場大師堂として宗源寺にあり、いつの頃か当時の朝日町へ移転し永田区大師堂となりました。老朽化の為現在お堂はありませんが、大師像などは西朝日町自治会が保存し、巡礼祭は3月、弘法祭は4月に行われています。

## ⑫宗源寺とエドヒガンザクラ

曹洞宗宗源寺は、1892年（明治25年）の開創で、本尊は、高さ158cmの木造大白衣観音菩薩です。また、那須三十三観音霊場の第15番札所となっています。毎年1月の第3日曜日には聖徳太子をしのぶ太子講が行われるほか、節分追儺式や大晦日のお焚き上げの行事が行われます。

境内にあるエドヒガンザクラは、樹高20m、推定樹齢150年で毎年ソメイヨシノに先駆けてピンクの濃い花を咲かせます。なお、大白衣観音菩薩とエドヒガンザクラは共に市の有形文化財に指定されています。

## ⑬南郷稲荷神社

南郷稲荷神社は、東町の第一南区公民館の敷地内にあり、宇迦魂(うかたま…女神、稲の神)を祀っています。1916年(大正5年)初午、かつて大田原街道沿いにあった豊川成功稲荷をこの地に移すとともに、南郷稲荷神社と改称しました。以降、第一南郷屋の鎮め神として地域の人々の崇敬を受けています。なお、神社内には、八坂神社が合祀されています。稲荷神社の祭りは第一初午直近の日曜日を春祭り、10月第一日曜日を秋祭り、八坂神社夏祭りを7月下旬の土曜日に行っています。

## ⑭一本杉と稲荷神社

一本杉は、西那須野駅から塩原温泉方面に約300m行ったところに立つ推定樹齢200年の杉の木です。かつて、那須野が原は広大な原野でしたが、原野を往来する人々の目印として何本かの杉が植えられ、現在はこの一本だけが残ったとされています。

1955年(昭和30年)頃地域の人々は、この杉の木を御神木とした稲荷神社を杉の根本に祀りました。3月下旬には例祭を行っています。

## ⑮疏水パーク

疏水パークは、旧西那須野町の「疏水の流れるまちづくり」の一環として、1991年(平成3年)3月に、かつての魚菜市場の跡地に造成されました。都市化と車社会の進展により、かつては表流していた市街地の那須疏水もその流れを直接見ることができなくなったことから、那須疏水をイメージ化した公園として整備しました。

## ⑯旧谷鉄工所跡のエドヒガンザクラ

この桜木は、昭和30年頃太夫塚3丁目、旧谷鉄工所跡に自生した山桜で、現在目通り2.5m、高さ23m、幅20mの巨木で、春にはソメイヨシノより一足早く豪華絢爛に咲く様は、近隣住民はもとより、多くの人たちに親しまれています。太夫塚郷土史「太夫塚130年の歩み」の中では、戦後の過ぎし日の桜として記述されています。平成26年10月には、太夫塚江戸彼岸桜保存会が設立されました。



サテライトマップ p9-10

# 那須開墾社ゆかりのルート（南地区コミュニティ）

## ◎南地区コミュニティセンター（南公民館）

南地区コミュニティセンターは、南小学校区内にある3自治会で構成され、1978年（昭和53年）に旧西那須野町で最も早く発足した南地区コミュニティの活動拠点です。南地区コミュニティは、明治期の那須開墾社所有地にあたります。また、田園空間博物館のフットパス「那須開墾社ゆかりのルート」の出発拠点でもあります。

南地区コミュニティでは、「盆踊り」「ハイキング」「花いっぱい運動」など数多くの行事を行い、住民相互の連帯感を高め、明るい地域づくりを目指しています。

## ① 縦道

縦道は、1875年（明治8年）に行われた関東地方の測量「関八州大三角測量」の2地点を結ぶ直線（基線）が元になっています。1880年（明治13年）に開拓を始めた那須開墾社が農場の中央部を縦貫するこの基線を開拓道路として利用したもので、現在も広域農道ライスラインの一部として真っ直ぐな道路が10kmにも及びます。また、縦道に沿って、那須疏水第四分水（縦堀）が流れていますが、直接水路を見ることはできません。

## ② 蚕金神社

蚕金神社（こがねじんじゃ）は、一区町公民館敷地内にあります。かつてこの辺りでは、養蚕が盛んであったことから、金山彦命（かなやまびこのみこと）（鋼業、農耕等の神）と稚産霊命（わくむすびのみこと）（養蚕の神）を祀っています。設立は不明ですが、台座には1925年（大正14年）建立とあります。また、蚕金神社の脇には、諏訪神社と八坂神社が祀られています。蚕金、諏訪神社は10月、八坂神社は7月の第2日曜日が祭日になっています。

隣の大師堂は、下野新四国88か所霊場20番札所になっています。

## ④ 観象台（南点）〈日本遺産〉

観象台（南点）は、大田原市実取にあります。1875年（明治8年）から明治政府が関東地方の測量（関八州（かんはっしゅう）大三角測量）を行った際、三角測量の基点として造りました。北点は、千本松地内の畜産草地研究所にあります。1878年（明治11年）4月から2回基線測量が行われ、北点と南点を結ぶ基線の長さ10628.310589mを測定しました。

## ⑤ 渡辺勇吉とヤスの碑

渡辺勇吉とヤスの碑は、俗に合格神社と呼ばれる菅原道真と倉稲魂神（うかのみたまのかみ）を祀った神社境内にあります。渡辺勇吉は、新潟県出身で矢板市幸岡にある小川屋に奉公し、小川屋の娘安子と結婚しました。勇吉は、1882年（明治15年）那須開墾社の開設初期に入植し、奉公の経験から記帳などを身につけていたため開墾社では世話人として戸籍簿の整理や移住人の面倒をみました。また、初代区長や初回村会議員も務めました。碑は、1900年（明治33年）に関係者により建てられたものです。妻ヤス（安子）の碑は、1915年（大正4年）に建てられたものです。碑文には、夫勇吉と農業に励む様子を「其の貞順を称す」と讃えられています。

## ⑥ 旧日光北街道わきの道標

道標は、日光北街道と原街道の交差点南側にあり、1808年（文化5年）に建てられたと思われます。道標には、「右　日光」「左　大田原」と刻まれています。日光北街道は、江戸時代の大田原と日光を結ぶ街道でした。

## ⑦ 親王台と那須開墾社第一農場跡

親王台は、明治天皇が1881年（明治14年）の東北・北海道巡行の際に那須野が原の開拓の様子を見るために那須開墾社第一農場の一角に造成された高さ約3mの塚です。実際には、有栖川宮熾仁親王が天皇の名代として塚に登られました。また、1885年（明治18年）の那須疏水の通水式の際にも、北白川宮能久親王も登られ松の木（宮の松）をお手植えされました。那須開墾社第一農場事務所は、親王台北側の農家あたりにありましたが、現在当時をしのぶものとして農家裏手に土塁が残されています。

## ⑧ なんじゃもんじゃ

なんじゃもんじゃは、ハルニレの木で推定樹齢1000年と言われ、旧西那須野町の天然記念物に指定されていましたが、1980年（昭和55年）に枯死してしまいました。なんじゃもんじゃの言われは、水戸光圀がこの木の下で休憩した折に、地元の人に名を尋ねたところ誰も知らなかったことから「なんじゃもんじゃと名付けるとよい」と言われたことによるそうです。

## ⑨ 西郷神社〈日本遺産〉

西郷神社は、西郷従道（つぐみち）（西郷隆盛の実弟）を祀った神社で、国道461号線の那須塩原市と大田原市との境（大田原市加治屋）にあります。西郷従道は、1881年（明治14年）にいとこの大山巌（いわお）と共同で加治屋（かじや）開墾場を開設し経営していましたが、農場は、1901年（明治34年）に西郷農場と大山農場に分割されました。1902年（明治35年）に西郷が死去し、翌1903年に農場の移住民により建立されました。祠は、石に彫刻を施し立派なものです。祭日は、8月18日です。

## ⑩ 常盤ヶ丘と杏の里

常盤ヶ丘は、那須野が原扇状地に3つある分離丘陵の1つで、丘の頂上には那須野が原開拓の功績者である印南丈作や矢板武ほか3名のお墓があります。毎年4月7日には彼らの遺徳を忍ぶため、関係者により墓前祭が行われています。

また、杏の里は、常盤ヶ丘の東側斜面にあります。かつて、里作りのために杏の木をたくさん植栽し、今では3月下旬から4月中旬にかけて淡い紅色の花におおわれます。

## ⑪ 金刀比羅神社

金刀比羅(ことひら)神社は、二つ室公民館脇にあり五穀豊穣の神として地元の人の信仰を集めています。神社は、1884年(明治17年)に那須開墾社の入植者により一本木(現在の一区町)に建立されており、当時の農業日誌に「‥本社移住人‥‥一本木鎮座琴平神社を設立‥」と書かれています。初めは、「なんじゃもんじゃ」近くにありましたが、その後(時期不詳)現在の場所に移設されました。また、隣には加茂神社と下野新四国88か所霊場21番札所の弘法大師堂があります。「弘法様」として地域の人々に親しまれています。

## ⑫ 長延寺

長延寺は、常盤が丘の南麓にあります。1885年(明治18年)に大田原市佐久山の正浄寺の説教所として開かれました。浄土真宗西本願寺派に属し、本尊は阿弥陀如来です。開拓期の西那須野地区に最初にできた仏教施設で、雲照寺とともに学校のなかった開拓期の子供の教育の場でもありました。

## ⑬ ホタルの里

ホタルの里は、那須疏水から引いた分水路を田園空間博物館整備事業の一環として水辺整備を行ったものです。地元有志で作る「那須疏水ホタルの里保存会」が、ホタルの幼虫の餌となる「カワニナ」の増殖に取り組んだ結果、毎年夏になると水路の周りを多くのホタルが飛び交うようになり、多くの人たちがホタルを鑑賞しようと集まるまでになりました。

## ⑭ 諏訪神社

諏訪神社は、二区町公民館敷地内にあり、1892年(明治25年)に長野県の諏訪神社から分社したものです。那須開墾社の二区町地区には、長野県下伊奈地方からの入植者が多く、出身地の諏訪神社に開拓地での発展と長い道のりでの安全を祈願し、故郷を後にしたと言われます。神社は、狩猟神、農業神、武神として信仰を集めており、毎年10月の第1または第2日曜日にお祭りがあります。神社隣には津島神社が祀られ、また、下野新四国88か所霊場19番札所の大師堂もあり、「弘法様」として地域の人々に親しまれています。

## ⑮ 二区町の馬頭観音

馬頭観音は、仏教においては衆生の無智・煩悩を排除し、諸悪を毀壊する菩薩です。

この馬頭観音は、死んだ馬を供養するために建てられた石碑で、1909年(明治42年)に荒瀬久五郎により二区町公民館の裏、百間道(ひゃっけんみち)の傍らに建立されたものです。

## ⑯ 一区町馬頭観音と道標

馬頭観音は、仏教においては衆生の無智・煩悩を排除し、諸悪を毀壊する菩薩です。

この馬頭観音は、死んだ馬を供養するために建てられた石碑です。この2基の馬頭観音は、1925年(大正14年)と1939年(昭和14年)に建立されたものです。2003年(平成15年)道路の改修に伴い現在地に移転されました。道標は、昭和天皇の即位を記念して地元一区青年団が建てたものです。

## ⑰ 西堀開墾記念碑

西堀開墾記念碑は、1927年(昭和2年)に現一区町、那須疏水西堀東側に入植した10軒の入植者が、入植20年を記念して建立しました。この地区は、那須疏水の水利権がなかったため水田を作ることができず、苦しい生活を送ったことが碑文に記されています。

戦後動力ポンプにより地下水の汲み上げがされるようになり、徐々に水田が開け現在の緑豊かな田園となりました。

サテライト番号③は
平成29年度に**廃止**になったため、
欠番となっております。

## トピック② 那須野が原の歴史

那須野が原は、箒川と那珂川に挟まれた約4万ヘクタールの地域をいいます。この地域は扇状地のため、北部や中央部では水が地下に浸透してしまい、地下水は豊富な反面、表流水は乏しく、明治時代以前は茅などの茂った原っぱでした。

この原っぱの本格的な開発は、明治以降、郷土の先達印南文作、矢板武らの結社農場や三島通庸、大山巌、西郷従道、松方正義、毛利元敏、青木周蔵、戸田氏共ら元勲・政府高官・旧藩主などの人たちの大農場による開拓からで、この開拓を支えたのが那須疏水の開削でした。

那須疏水は、明治18年(1885年)に国の直轄事業で行われ、この年の9月に幹線水路(約16.3㎞)、翌年度までに主な分水路(約46.5㎞)が完成しました。

荒れた原っぱが広がっていた那須野が原も、開拓によって緑豊かな土地に生まれ変わりました。

那須野が原西部地区は、湧水や蟇沼用水・那須疏水の「水」と明治期の「開拓」の歴史に育まれた大地が融合した文化をもつ、豊かな田園空間です。

サテライトマップ p9-10

# サテライトマップ＆フットパス

## 開拓の京（みやこ）ルート
（約9km　徒歩3時間　サテライト数7個）

三島地区コミュニティ

那須野が原開拓の先駆をなした肇耕社（後の三島農場）ゆかりの場所、都市化を目指してつくられた三島地区に残る碁盤の目状の道路、古くからの村に残り人々の信仰を物語る石碑等を訪ねます。

◎三島地区コミュニティセンター
➡❶三島神社
➡❷ボーイスカウト那須野営場
➡❸三島開墾紀恩碑
➡❹さんさん通り
➡❺旧狩野村役場跡
➡❻南郷屋公民館温泉神社と原街道道標
➡❼東赤田の馬頭観音

サテライトの詳細説明は P.2

## 水と街道散策ルート
（約12km　徒歩4.5時間　サテライト数17個）

横接地区コミュニティ

蓼沼用水が流れる接骨木街道沿いは石造物や一里塚が残っており、昔の街道沿いの面影がしのばれます。那須疏水には昔のサイフォン出口の石組みが残り、先人の水への思いが感じられます。

◎接骨木公民館➡❶接骨木の常夜灯・石仏・石碑
➡❷那須連山のビューポイント➡❸接骨木の一里塚
➡❹地方競馬教養センターと桜並木➡❺接骨木の愛宕神社
➡❻接骨木の六地蔵➡❼高原山のビューポイント
➡❽那須疏水・蓼沼用水の立体交差➡❾那須疏水蛇尾川サイフォン出口
➡❿蛇尾川の河原➡⓫会津中街道一里塚
➡⓬念仏石碑➡⓭横林の温泉神社
➡⓮接骨木街道沿いの蓼沼用水➡⓯会津中街道跡と道標
➡⓰接骨木の八坂神社➡⓱接骨木の温泉神社

サテライトの詳細説明は P.3-4

## 時計塔を眺める街並みルート
（約5.5km　徒歩3時間　サテライト数16個）

中央地区コミュニティ

旧西那須野町のシンボル時計塔を中心に開拓にまつわる神社などをめぐります。開墾を阻む石を集めてできた石塚は現存する数少ないもので、開拓当時の苦労が思い出されます。

◎中央地区コミュニティセンター➡❶西那須野公民館の胸像
➡❷十九夜地蔵尊堂➡❸淡島神社
➡❹太夫塚神社と庚申塔➡❺開拓苦難の石塚
➡❻愛宕神社➡❼支所庁舎時計塔と「望」の像
➡❽那須疏水ゆかりの黒松➡❾西那須野駅
➡❿通り名のある街並み➡⓫永田区大師堂門碑
➡⓬宗源寺とエドヒガンザクラ➡⓭南郷稲荷神社
➡⓮一本杉と稲荷神社➡⓯疏水パーク
■⓰旧谷鉄工所跡のエゾヒガンザクラ

サテライトの詳細説明は P.5-6

## 那須開墾社ゆかりのルート
（約14km　徒歩5時間　サテライト数16個）

南地区コミュニティ

地元有志の設立した那須開墾社発祥の地で、関八州大三角測量の名残の墓点もあり、親王台や彼らが開拓を誓った常盤ヶ丘などをめぐります。

◎南地区コミュニティセンター➡❶縦道➡❷蚕金神社
➡❹観象台（南点）➡❺渡辺勇吉とヤスの碑
➡❻旧日光北街道わきの道標
➡❼親王台と那須開墾社第一農場跡➡❽なんじゃもんじゃ
➡❾西郷神社➡❿常盤ヶ丘と杏の里
➡⓫金刀比羅神社➡⓬長延寺➡⓭ホタルの里
➡⓮諏訪神社➡⓯二区町の馬頭観音
■⓰一区町馬頭観音と道標　■⓱西堀開墾記念碑

サテライトの詳細説明は P.7-8

◇総合案内所
那須野が原博物館に併設
◇地域展示物（サテライト）
伝統的農業施設など
・石積み水路、自然豊かな小川（蓼沼用水玉石積水路など）
・那須疏水水車
・湧水地（出釜湧水地・津室川湧水地など）
美しい農村景観
・里山、平地林（赤田山など）
地域に残された史跡
・地域に現存する開拓等の史跡（那須開墾社事務所堀など）
◇フットパス
各コミュニティを拠点にフットパス（巡回ルート）の設定
全10コース

## 那須疏水探訪ルート
（約16km　サテライト数15個）

自動車半日コース

那須西原の歴史は那須疏水の開削により大きく花開きました。疏水の起工式が行われた烏ヶ森公園から蛇尾川サイフォンまで開拓当時に思いをはせながら、存分に那須疏水を探訪できます。

■総合案内所➡❹烏ヶ森公園
➡❻那須開墾社事務所掘➡❺那須開墾社第二農場跡
➡❼そすいの郷直売センター➡❽那須疏水水車
➡⓮那須疏水探訪の小径➡⓯那須疏水第三分水
➡⓭那須疏水記念碑➡⓬赤田調整池
➡⓫那須野が原公園とサンサンタワー➡❼高原山のビューポイント
➡⓫会津中街道一里塚➡❽那須疏水・蓼沼用水の立体交差
➡❾那須疏水蛇尾川サイフォン出口➡❿蛇尾川の河原

■凡　例

| | |
|---|---|
| 総合案内所 | |
| 出発拠点 | ◎ |
| サテライトナンバー | 00 00 00 00 00 00 00 |
| フットパス | |
| 博物館エリア | |
| 那須疏水・水路 | |
| 道　路 | |
| 高速道路 | |
| 鉄　道 | |

## 那須疏水の郷ルート
（コミュニティセンター～⑩）
（約4.5km　徒歩2時間　サテライト数10個）

西地区コミュニティ



那須疏水の起工式が行われるなど開拓を見守った烏ヶ森の丘や、那須疏水が育んだ大農場などをめぐります。その水の恵みを受けて作られた農作物も味わえます。

◎西地区コミュニティセンター➡❶加治屋堀
➡❷雲照寺の石仏・広大な森林➡❸烏森神社
➡❹烏ヶ森公園
➡❺那須開墾社第二農場跡
➡❻那須開墾社事務所掘
➡❼そすいの郷直売センター➡❽那須疏水水車
➡❾光尊寺と大銀杏、馬頭観音
➡❿共有地取得記念碑等

## 那須疏水さわやかルート
（⑪～⑲）
（約4.5km　徒歩2時間　サテライト数9個）

西地区コミュニティ

那須疏水幹線水路沿いには平地林が残り、開拓当時の別邸がたたずんでいます。体験型の牧場もあり、疏水開削に思いをはせながら牧歌的な景色や水辺が楽しめます。

⑪那須野が原公園とサンサンタワー
➡⑫赤田調整池
➡⑬那須疏水記念碑➡⑭那須疏水探訪の小径
➡⑮那須疏水第三分水➡⑯観象台（北点）
➡⑰千本松牧場➡⑱萬歳閣（松方別邸）
■⑲赤田山と三島神社奥宮母智丘神社

サテライトの詳細説明は P.11-12

## ふるさと湧水群ルート
（約9.5km　徒歩3.5時間　サテライト数12個）

狩野地区コミュニティ

那須野が原で古い歴史をもつ地域に残る、水の豊かな湧水地、縄文時代の遺跡、昔のたたずまいを残す板倉、人々の信仰を物語る寺社や石碑などを訪ねます。

◎狩野地区コミュニティセンター➡❶鶏鳥神社
➡❷西遅沢の出釜湧水地➡❸遅沢の板倉
➡❹西遅沢の温泉神社
➡❺井口の生駒神社と石碑➡❻椿稲荷
➡❼井口の天満宮➡❽慶乗院
➡❾津室川湧水地➡❿槻沢遺跡
➡⓫権現山の湯殿神社
■⓬温泉神社のなんじゃもんじゃの木

サテライトの詳細説明は P.13-14

## 自然ふれあい将軍ルート
（約9km　徒歩3.5時間　サテライト数11個）

大山地区コミュニティ

那須野が原に農場を有し開拓を進めた大山巌やこの地に別荘を建て地元民と親しく交わった乃木希典にちなむ史跡をめぐり、それらを囲む自然や集落を流れる蓼沼用水など、のどかな風景を楽しめます。

◎大山地区コミュニティセンター➡❶大山別邸
➡❷大山墓所とモミジ並木
➡❸新南のエドヒガンザクラ
➡❹ポッポ通り➡❺乃木神社と桜並木
➡❻乃木神社の樹林➡❼乃木清水
➡❽乃木別邸と静沼➡❾石林の道標と大松
➡❿石林の蓼沼用水玉石積水路
➡⓫大山小学校の自然林

サテライトの詳細説明は P.15-16

## 水と森満喫ルート
（約47km　サテライト数35個）

自動車1日コース

各ルートの見どころとなるサテライトを選定したコースです。開拓の歴史を学びながら那須野が原西部地区の豊かな「水」と「森」を楽しめます。

■総合案内所➡❶三島神社➡❹烏ヶ森公園➡❺那須開墾社第二農場跡
➡❻那須開墾社事務所掘➡❼そすいの郷直売センター➡❽那須疏水水車
➡⑲赤田山と三島神社奥宮母智丘神社➡⑰千本松牧場
➡⑯観象台（北点）➡⑱萬歳閣（松方別邸）➡⑭那須疏水探訪の小径
➡⑮那須疏水第三分水➡⑪那須野が原公園とサンサンタワー
➡❼高原山のビューポイント➡⑪会津中街道一里塚
➡❾那須疏水蛇尾川サイフォン出口➡❿蛇尾川の河原
➡⑭接骨木街道沿いの蓼沼用水➡❶接骨木の常夜灯・石仏・石碑
➡❸接骨木の一里塚➡❻椿稲荷➡❷西遅沢の出釜湧水地➡❸遅沢の板倉
➡❾津室川湧水地➡❺乃木神社と桜並木➡❻乃木神社の樹林➡❼乃木清水
➡❽乃木別邸と静沼➡❿石林の蓼沼用水玉石積水路➡❽なんじゃもんじゃ
➡❼親王台と那須開墾社第一農場跡➡❿常盤ヶ丘と杏の里➡❶大山別邸
➡❷大山墓所とモミジ並木➡❺開拓苦難の石塚➡■総合案内所

# 那須疏水の郷ルート（コミュニティセンター～⑩）

次ページに続く

## ◎西地区コミュニティセンター（西公民館）

西地区コミュニティセンターは、西小学校区内にある7自治会で構成され、1985年（昭和60年）に発足した西地区コミュニティの活動拠点です。西地区コミュニティは、明治期の那須開墾社、後の松方農場及び三島農場所有地の一部にあたります。また、田園空間博物館のフットパス「那須疏水の郷ルート」の出発拠点でもあります。

西地区コミュニティでは、「そすいの郷づくり」「疏水太鼓」「いも煮会」など数多くの行事を行い、地域住民たちの連帯意識を高め、健康で明るい地域づくりを目指しています。

## ❶加治屋堀

加治屋堀は、大田原市加治屋まで流れる元々の第四分水を言います。当初の第四分水は那須開墾社地内を流れ東に片寄っていたため、那須開墾社は独自に縦堀と西堀を開削しました。現在、縦堀、加治屋堀、西堀を合せて第四分水と言います。

## ❷雲照寺石仏・広大な森林

雲照寺は1887年（明治20年）に本堂が完成しました。雲照寺に通じる参道は、那須開墾社第二農場の脇から東側にある小丸山まで続き、参道の木々の間には西国三十三所霊場を模した三十三体の石の観音様が並んでいます。小丸山には開山堂がありましたが、今では観音様が祀られ歴代住職の墓石が並んでいます。

## ❸烏森神社

烏森神社は、平安時代の902年烏ケ森稲荷神社として建立され、鎌倉時代の1193年将軍源頼朝が那須野巻狩りの際、豊猟を祈願したと伝えられています。1888年（明治21年）印南文作、矢板武が開拓の氏神として社殿を再建し、同時に神社を中心に松と桜を奉納植樹しました。1885年（明治18年）4月15日には、那須疏水開削の起工式が神前で行われました。また、1894年（明治27年）には、那須開墾社の開墾成業式が神前で開拓事業の成功を盛大に祝いました。

## ❹烏ヶ森公園〈日本遺産〉

烏ヶ森公園は、西那須野地区のほぼ中心部にある小高い丘陵地帯に広がる公園です。1879年（明治12年）印南文作、矢板武両名は、この丘の上で時の内務卿伊藤博文と勧農局長松方正義に水路開削の必要性を訴え、1885年（明治18年）には那須疏水の起工式が行われました。また、丘の上には鎌倉幕府の将軍源実朝（みなもとのさねとも）の「武士（もののふ）の矢並つくろう籠手（こて）のうえに霰（あられ）たばしる那須の篠原」の歌碑があります。

今では、4月の桜、5月のつつじ、6月から7月にかけてのアジサイなど花の名所として、市民はもとより観光客が訪れます。

## ❺那須開墾社第二農場跡

那須開墾社は、1880年（明治13年）印南文作、矢板武らが中心となり株主67名によって創設された約3400haおよぶ那須野が原最大の農場でした。当初開墾社事務所は、一区地内親王台付近に開設されましたが、那須疏水の通水とともに開墾の中心であったこの地に移され第二農場と呼ばれました。那須開墾社は、1894年（明治27年）成業式をあげ、解散し矢板農場として引き継がれました。かつては、茅葺の事務所建物がありましたが、現在は公園として整備されています。

## ❻那須開墾社事務所堀

那須開墾社事務所堀は、那須開墾社第二農場事務所前にあった堀で、那須疏水から通水し「ドジョウ池」とも呼ばれていました。田園空間博物館整備事業の一環として、かつてのように那須疏水が流れる堀を復元し、生き物の生息環境を保全するとともに、駐車場や散策路も整備しました。

## ❼そすいの郷直売センター

そすいの郷直売センターは、地元の農家の方々が作った地場産の新鮮、安価な農産物を消費者に届けることを目的に「ふるさとにしなす産直会」が運営している直売所です。また、隣には農村レストラン「そすい庵」があり、地場産のそば粉を使用した手打ちそばが楽しめます。

【営業時間】そすいの郷直売センター　9時～16時
そすい庵　11時～14時（土・日・祝は14時30分まで）

## ❽那須疏水水車

那須疏水水車は、そすいの郷直売センター前を流れる那須疏水に掛かる田園空間博物館整備事業の一環として設置した直径4m、幅90cmの水車です。かつての那須野が原には昭和20年頃までは、那須疏水を利用した水車が100基以上あったと言われ、精穀（せいこく）や製粉、製材などに使用されていました。水車小屋では、かつてのように石臼でそばを引き、そのそば粉で打ったそばを「そすい庵」で提供しています。

## ❾光尊寺と大銀杏、馬頭観音

光尊寺は、1889年（明治22年）に浄土真宗本願寺派21世宗主（しゅうしゅ）大谷光尊によって開創されました。光尊は、時の農商務大輔であり自らも旧湯津上村に農場を開いた品川弥二郎の勧めにより那須野が原の視察を行い、1887年（明治20年）7月に那須開墾社を訪れた際に、印南文作、矢板武、品川弥二郎らの寺院建立の申出にこたえたものでした。境内には、樹齢約100年、高さ18m、目通り3.3mの大銀杏があります。また、馬頭観音が13体あり、かつては馬頭観音講日があり亡くなった馬を供養していました。

p9-10 サテライトマップ

# 那須疏水さわやかルート(⑪～⑲)(西地区コミュニティ)

## ⑩共有地取得記念碑等

共有地取得記念碑等は、三区町公民館の敷地内に建っています。1896年(明治29年)に三区地区に入植した53名は、共有地を求める運動を起こし、ここに30アールの共有地を持つことができました。彼らは、共有地の一角に八坂神社と蚕影神社(こかげじんじゃ)を祀り、精神的寄りどころとして、多くの困難に耐えました。共有地を得たことにより、入植者は選挙権も得ることができました。記念碑は、神社社殿の改築時に建てられたもので、開拓史の夜明けを伝えています。

## ⑪那須野が原公園とサンサンタワー 〈日本遺産〉

那須野が原公園は、1988年(昭和63年)7月に開園した、県立公園です。園内にはオランダ風車や噴水などがあり、また、サイクリングコースやテニスコート、ファミリープール、オートキャンプ場などが整備されています。サンサンタワーは、公園の開園10周年を記念し整備され、高さ33.3mにちなんで名付けられました。那須野が原の牧歌的な雰囲気に合わせ、サイロをイメージしたものです。最上階の展望台からは、那須野が原を360度眺望できます。

## ⑫赤田調整池

赤田調整池は、那須疏水下流域の第3分水、第4分水の用水補給の安定化及び、降雨時の洪水調整を行うために、1980年(昭和55年)造成された人工の池です。有効水量120万 ㎥、満水時面積13.8haになります。また、1年を通じて色々な野鳥が飛来し、カモやサギのほか、白鳥も飛来したことがあります。施設の見学ができますので、希望される方は水土里ネット那須野ヶ原(那須野ヶ原土地改良区連合)まで連絡願います。【問い合わせ】☎0287－36－0632

## ⑬那須疏水記念碑

記念碑は、赤田調整池畔に立つ那須疏水土地改良区事務所前に建っています。1986年(昭和61年)に那須疏水通水百周年を記念し、那須疏水土地改良区事務所が三島から接骨木(にわとこ)に移転した際、併せて移設されました。もともとは、1957年(昭和32年)に那須疏水土地改良区により三島地内の市有地(現三島公会堂)に建てられたものです。隣には、那須疏水通水百周年記念碑もあります。

## ⑭那須疏水探訪の小径

那須疏水探訪の小径は、国道400号から那須野が原公園に続く県道沿いを流れる那須疏水幹線水路に沿って田園空間博物館整備事業の一環として整備された散策路です。この小径沿いの那須疏水には、東京電力により疏水の水を利用したタイプの異なる3つの水力発電施設が整備されています。また、田園空間博物館運営協議会では、那須野が原公園などと共催し、毎年秋に探訪の小径を歩く「那須野が原ウォーク」を実施しています。

## ⑮那須疏水第三分水

那須疏水第三分水は、国道400号から那須野が原公園へ続く県道を100mほど行った左手に見える分水口から大田原市の深川赤堀まで続く8.8kmの水路です。1886年(明治19年)に開削され、肇耕社(後の三島農場)や加治屋開墾(後の大山農場)を潤しました。第三分水口すぐ下流には、背割分水という那須疏水独特の分水方式を見ることができます。

## ⑯観象台(北点) 〈日本遺産〉

観象台(北点)は、農研機構の正門左側(国道400号沿い)にあります。1875年(明治8年)から明治政府が関東地方の測量(関八州(かんはっしゅう)大三角測量)を行った際、三角測量の基点として造りました。南点は、大田原市実取地内にあります。1878年(明治11年)4月から2回基線測量が行われ、北点と南点を結ぶ基線の長さ10628.310589mを測定しました。

## ⑰千本松牧場 〈日本遺産〉

千本松牧場は、総理大臣を務めた松方正義が1893年(明治26年)に那須開墾社よりこの地を譲り受け、大農具を導入して欧米式農場を開いたことに始まります。一帯は、赤松林が広がっていたことから「千本松」と命名されました。千本松牧場では、乳牛を飼育するとともに、牛乳、アイスクリーム、チーズ、ソーセージなどの農産加工品を販売するほか、熱気球や乗馬体験などもできる通年で楽しめるレジャー施設になっており、多くの観光客でにぎわいます。また、周りの赤松林はオオタカの営巣地でもあり、貴重な自然が保護されています。

## ⑱萬歳閣(松方別邸) 〈日本遺産〉

萬歳閣は、1903年(明治36年)に総理大臣を務めた松方正義の別邸の別称です。千本松牧場内にあるこの建物は、床面積334㎡の洋館で、1階が石造、2階が木造からなっています。1904年(明治37年)大正天皇が皇太子の時、別邸に駐泊の際、折から日露戦争で遼陽(りょうよう)が陥落した報が届き、一同で万歳をしたことから「萬歳閣」と呼ばれるようになりました。別邸の前庭には、かつての堀が残るほか、周辺にはモミジが多く自生し、秋に赤く色づいた木々にかこまれた別邸は一段と映えます。なお、別邸は現在も関係者が利用し内部見学はできません。

## ⑲赤田山と三島神社奥宮母智丘神社

赤田山は、那須野が原に残った311mの分離丘陵です。この丘の周辺は、1880年(明治13年)に三島通庸(みちつね)が肇耕社(ちょうこうしゃ)という農場を設立し開拓をはじめました。頂上には、三島にゆかりのある宮崎県都城にある母智丘(もちお)神社の御神体(神鏡)の複製が祀られている母智丘神社があります。また、神社に掛かる扁額は、太政大臣三条実美の筆によります。

田園空間博物館整備事業の一環として、神社裏手にある旧西塩水道の配水池跡を展望台として、また、そこまで続く散策路を整備しました。

# ふるさと湧水群ルート（狩野地区コミュニティ）

## ◎狩野地区コミュニティセンター（狩野公民館）

狩野地区コミュニティセンターは、槻沢小学校区内にある9自治会で構成され、1980年（昭和55年）に発足した狩野地区コミュニティの活動拠点です。また、田園空間博物館のフットパス「ふるさと湧水群ルート」の出発拠点でもあります。

狩野地区コミュニティは、西那須野地区でも歴史の古い地域で、江戸時代には10か村がありました。さらには、縄文時代の槻沢遺跡や地区内にはいくつもの湧水があるなど、西那須野地区の他のコミュニティにはない特色のある地域です。コミュニティでは、「盆おどり」「どんど焼き」「マスのつかみ取り」など数多くの行事を行い、相互の連帯感を高め和やかな地域づくりを目指しています。

## ❶鶏鳥神社

鶏鳥神社は、関根の後藤家の氏神として祀ったことに始まり、鶏権現とも呼ばれています。鶏鳥神社は、感冒の神としての信仰が強く、参拝すると風邪にかからないというので、1935年（昭和10年）頃まで多数の参拝者があり、奉納された鶏の絵が社殿一杯に飾られていたと言います。神社には、御神木のケヤキと杉にまつわる話が多く、御用材として御神木を伐採しようとしたところ、祟りによって多数の病人やけが人が出たため、伐採が中止になった話などがあります。

## ❷西遅沢の出釜湧水地

西遅沢の出釜湧水地は、5月から水の枯れる12月まで、窪地から豊富な水を湧出しています。田園空間博物館整備事業の一環として、湧水口一帯を地域の人々が水に親しめるよう公園として整備しました。なお、西那須野地区の東部地域には、現在でもいくつもの湧水地が残っています。ちなみに、出釜とは、この地域で水の湧く泉のことを言います。

## ❸遅沢の板倉

遅沢の板倉は、遅沢喜悦氏所有のものです。倉は、穀物やみそを保存・貯蔵したり家財など火災や盗難から守るための建物です。かつては、土蔵も多く見受けられましたが、現在は、あまり見かけなくなってきています。この板倉の脇には、柿の木が植えられ昔の農村風景を今に伝えています。

## ❹西遅沢の温泉神社

西遅沢の温泉神社は、西遅沢公民館の敷地内にあり、五穀豊穣（ごこくほうじょう）の神様として祀られています。奉納された石燈籠には、1805年（文化2年）、棟札には1834年（天保5年）との記載があります。神社内には、稲荷神社、月夜見大明神、八雷龍王神霊（やくさいかづちりゅうおうおおみたま）、神祖熊野大神櫛御気野命（くまののおおかみくしみけぬのみこと）の4神が祀られています。

## ❺井口の生駒神社と石碑

井口の生駒神社は、明和年間（1764年～1772年）に矢板市玉田の生駒神社を勧請し、祀ったもので通称「ソウゼン様」の名で呼ばれています。明和年間にこの地域に馬の病気が流行し、亡くなる馬が多かったことから生駒神社に病気の平癒を祈願したところおさまったと言われています。神社には熊谷直実の武者絵を描いた絵馬（1811年（文化8年））が奉納されています。また、神社脇には、馬頭観音や庚申塔などの石碑が多数あります。

## ❻椿稲荷

椿稲荷は、井口地内にありかつて椿の大木（樹高約8m、根本回り2.22m、推定樹齢約250年）が境内にあったことから椿稲荷の名で親しまれています。建立は、1579年（天正7年）頃と言われ、九尾の狐の霊を祀るために建立したとの伝説が残っています。参道には、信者が奉納した赤い鳥居が並び、何株かの椿がかつての面影を今にとどめています。毎年2月二の午に例祭が行われます。

## 言い伝え

### 蛇尾川の水

『東那須野村笹沼のある家に一人の見苦しい僧が現れ、機織りをしていた婦人に水を乞うた。婦人は面倒に思い、水のないことを告げて仕事を続けた。僧はその虚言（きょげん）に憤り、清く流れていた蛇尾川の水を踏み止めてしまった。それ以来、上流と下流には水があって、中間に位置する東那須野村と狩野村の境の部分には水がなくなってしまった。』この時現れた僧は弘法大師であったと伝えられています。

p9-10 サテライトマップ

## ⑦井口の天満宮

井口の天満宮は、由緒沿革が不明です。天満宮とは、菅原道真の御霊と雷神とが合わさった天神信仰が起源で、学芸の神様として寺子屋の普及とともに全国に広がっていきました。ここの天満宮は後に二子塚温泉神社を合祀しており、また、境内には愛宕神社の小さな祠があります。

## ⑧慶乗院

慶乗院は、室町時代の1394年(応永元年)に創建された高野山真言宗に属する寺院です。本尊は不動明王です。この本尊の脇に安置されている石仏に刻まれた文字から、1813年(文化10年)か、これ以前に寺が焼失したことが分かっています。本堂はその後1853年(嘉永6年)に再建され、今の本堂は1965年(昭和40年)に改築されたものです。本寺は、那須三十三観音霊場第14番札所となっています。また、1960年(昭和35年)に境内の地中から出土した16弁の菊の紋章が刻まれた石碑2基がありますが、宮内庁の調査でも皇室関係と結びつくような材料は見つかっていません。

## ⑨津室川湧水地

津室川湧水地は、西遅沢地区の出釜からの湧水と異なり湧水出口の上流部に埋められた集水管によって集められた水が湧水しています。田園空間博物館整備事業では、駐車場の他、水路に沿って遊歩道を設置し人々が水に親しむことができるよう整備しました。なお、津室川は、このような上流の水を集めた二つの湧水が水源となっており、5月から12月まで豊富な水を湧出しています。

## ⑩槻沢遺跡

槻沢遺跡は、高柳地区と槻沢地区の境を流れる津室川の東側の小高い丘陵地帯に広がる縄文時代中期から後期(約4000年～5000年前)の遺跡です。遺跡の発掘は古くから知られ、これまで7回の発掘調査が行われました。中でもライスラインの通過に伴う発掘では、住居跡約180、土抗(どこう)(食糧貯蔵のための穴)約450が確認され、縄文時代の大集落跡であったことが分かっています。発掘では、遺構他膨大な土器や石器も出土しており、特に一つの土抗から、東北形式と関東形式が混じった30個の土器や土器片が出土し、文化交流を裏付けるものとして、国指定重要文化財に指定されています。出土した様子は、復元され那須野が原博物館に展示されています。

## ⑪権現山の湯殿神社

権現山の湯殿神社は、山形県湯殿山より分社したと伝えられています。湯殿山は、山自体が信仰の対象であり山伏と呼ばれる山岳修行者が行を積むところです。権現山南側にもかつて修験者が住んでいた行屋(ぎょうや)があり、木造の大日如来が奉られていました。この、大日如来は、石林に移転され大日堂が建立され今でも信仰を集めています。湯殿神社の祭日は、4月10日と10月5日で、かつては相撲や獅子舞が奉納されていました。

## ⑫温泉神社のなんじゃもんじゃの木

温泉神社のなんじゃもんじゃの木は、高柳温泉神社にあります。南地区コミュニティ内の「なんじゃもんじゃ」は、「ハルニレ」ですが、ここのなんじゃもんじゃは、もくせい科の「ヒトツバタゴ」で1978年(昭和53年)に植樹されたものです。ヒトツバタゴは、愛知、岐阜、対馬だけに自生し、5月頃に白い花をつけます。名前がわからない木を「なんじゃもんじゃ」と呼んでいたようで、この木もそう呼ばれていました。

## 鶏鳥神社縁起

『いつの時代か知らないが、この辺も例外に漏(も)れず合戦の場となったそうな。敵味方に別れ陣を敷き、にらみ合ったまま、日が暮れたそうな。次の日、夜も白々と明ける頃、一番鶏が鬨(とき)を衝(つ)いたとき、この時を待っていたといわんばかりに敵方に攻め込まれてしまった。この辺の人は鶏が鬨を衝いたために攻め込まれたと勘違いし、飼っていた鶏を全部殺してしまい、その後誰言うこともなく鶏を飼うことを止めてしまったらしい。』その時殺した鶏の御霊を祭った社が鶏権現様だという説もあるが、ことの次第は定かではありません。

## 権現山の大蛇

『その昔、槻沢(つきぬきざわ)にある権現山に樹齢数百年を経たであろう松の大木があった。この松の木は大きなうろ(木の真ん中が腐って空洞)になっていて、その中に大蛇が住んでいると言い伝えられていた。辺りの者はそれを信じ決して近づこうとはしなかった。ある年の夏、大夕立が来て目もくらむような稲妻とともに松の木に雷が落ちた。松の木はそのまま燃え上がり、七日間くすぶり続けた。火が消えた後村人がおそるおそる近づいてみると、燃え尽きた灰の中から巨大な蛇の骨が出てきた。骨は全部で釜ざる(20リットルくらい入る大ざる)ひとつ分もあったという。』

# 自然ふれあい将軍ルート（大山地区コミュニティ）

## ◎大山地区コミュニティセンター（大山公民館）

大山地区コミュニティセンターは、大山小学校区内にある4自治会で構成され、1990年（平成2年）に発足した大山地区コミュニティの活動拠点です。大山地区コミュニティは、明治期の大山農場所有地にあたります。また、田園空間博物館のフットパス「自然ふれあい将軍ルート」の出発拠点でもあります。

大山地区コミュニティでは、「どんどん焼き」「花いっぱい運動」など数多くの行事を行っています。また、地域内には保育園、小中学校及び高等学校があるため、「文教と友愛の郷」を合い言葉に、子供からお年寄りまで楽しく元気に学びあえる地域を目指しています。

## ❶大山別邸〈日本遺産〉

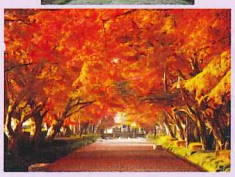
大山別邸は、明治の元勲（げんくん）大山巌（いわお）が、自身の農場内に建てた和館と洋館からなる建物です。和館は、大山の郷里鹿児島で見られる台風に備えた造りで、洋館は、農場内で焼いたレンガを利用した重厚な造りです。別邸の北側には、那須野が原の強風を防ぐための土手（土塁）が築かれています。

現在、別邸の外観の見学は自由にできますが、管理を県立那須拓陽（たくよう）高等学校が行っていますので、別邸内部を見学される場合は、那須拓陽高校にご連絡ください。

【問い合わせ】☎0287－36－1225（土・日、祝日は休み）

## ❷大山墓所とモミジ並木〈日本遺産〉

大山墓所は、大山巌（いわお）本人のほか、鹿鳴館の華と言われた捨松（すてまつ）夫人や小説「不如帰（ほととぎす）」の浪子のモデルとなった娘信子など大山家の人々が埋葬されています。なお、墓所の見学はできません。



モミジ並木は、大山墓所の参道に植えられた約200mのモミジ並木です。モミジは、1917年（大正6年）に宮内省技師　山本直三郎の設計により植樹され、かつてはモミジと桜が1本おきに植えられていました。現在は、市の天然記念物として指定され、また、大山公園として整備され、新緑と紅葉の時期には人々の憩いの場となっています。

## ❸新南のエドヒガンザクラ

新南に幹周3.3メートル推定樹齢200年の希少なエドヒガンザクラがあり、春先に美しいピンク色の花をつけます。かつては林の中でひっそりと咲いていましたが、地元の方々が整備を進め、多くの人の目に止まるようになりました。

## ❹ポッポ通り

「ポッポ通り」は、1918年（大正7年）に西那須野から黒羽まで開通した東野鉄道の軌道跡を歩行者と自転車の専用道路に整備したものです。東野鉄道は、1968年（昭和43年）に廃止されましたが、通りには機関車の車輪やプラットホームが設置されており、往時をしのばせます。

## ❺乃木神社と桜並木

乃木神社は、明治天皇の崩御に際し殉死した陸軍大将　乃木希典（まれすけ）を祀る神社で、1916年（大正5年）に生前農業を行ったこの地に建てられました。乃木大将は、1891年（明治24年）に石林に農地を求め、「農は国家の大本（おおもと）なり」と自ら鋤（すき）を手に畑を耕しました。また、境内には、遺言（ゆいごん）書、刀剣など将軍ゆかりの品々を展示する宝物館のほか、別邸が保存されています。

桜並木は、神社へと続く参道脇に植えられた約600mの並木です。花の開花する4月中旬には、多くの人々が見学に訪れます。なお、順次古木の植え換えが行われています。

p9-10 サテライトマップ

## ⑥乃木神社の樹林

乃木神社の樹林は、乃木神社社殿の裏側にあり、この地域の自然林の特徴が見られることから、市の天然記念物にも指定されている貴重なものです。乃木大将は、木を伐採することを好まなかったことから、往時と同じ自然のままの姿を残しています。樹種約30種、本数約500本にもおよび太いものでは、樹齢200年にもなります。また、静子林という大将の奥さまの名をとった林もあります。

## ⑦乃木清水

乃木清水は、乃木神社の樹林内に湧き出す泉で、陸軍大将乃木希典(まれすけ)が、この地で生活している時は顔を洗ったと言われています。泉は、5月頃から翌年1月頃にかけて、出釜(でがま)部や清水の流れに沿ってしみ出すように湧き出します。

清水の石には、淡水産紅藻類(たんすいさんこうそうるい)に属するノギカワモズクが見られ、希少な植物として市の天然記念物に指定されています。乃木清水に沿って、木道や飛び石等散策路が整備されています。

## ⑧乃木別邸と静沼 〈日本遺産〉

乃木別邸は、陸軍大将乃木希典(まれすけ)が、1892年(明治25年)に自ら設計した建坪53坪の木造瓦葺の建物です。乃木大将は、石林のこの地をこよなく愛し、通算4年間静子夫人と過ごし、自ら鍬(くわ)や鋤(すき)を握って農作業にいそしみました。現在の別邸は、1993年(平成5年)に再建されたもので見学することができます。

静沼は、乃木大将とともに明治天皇の崩御に際し殉死した静子夫人にちなんで名づけられました。乃木別邸のそばの水田跡地に造られた灌漑(かんがい)用の池で、神社境内を流れる蟇沼(ひきぬま)用水から水を引いています。

## ⑨石林の道標と大松

道標は、1725年(享保10年)に原街道沿いに建てられた高さ122cm、幅47cmの石碑で、市の有形民俗文化財に指定されています。石碑中央には、法華経66部を写し、諸国の霊場(れいじょう)に納めるために国々を歩いたこと、側面には「右なすみち」「左しおばらみち」と刻まれております。

大松は、かつては道標の反対側にあった樹齢約250年の松の大木のことです。1982年(昭和57年)に枯れてしまい、その後2代目の松を植えましたが、この松も枯れてしまいました。

## ⑩石林の蟇沼用水玉石積水路

蟇沼用水は、慶長年間(1596年～)に開削され、1771年(明和8年)に大田原城まで引かれました。城内の飲用水として使用されたため沿線の農民が利用することはできず、利用できるようになったのは明治に入ってからでした。

現在は、農業用水として利用されており、石林地区の人たちの手により玉石を積み上げられた水路が今に至っています。

## ⑪大山小学校の自然林

大山小学校は、1977年(昭和52年)に開校しました。学校敷地内には、8,000㎡の平地林があり、クヌギ、コナラ、赤松など100以上の樹種が見られます。特に、市の天然記念物に指定されているキガンピは、近畿以西の温暖な山地に自生する暖地性種の落葉低木で、北限・隔離(かくり)分布する貴重な植物です。大山小学校では、この平地林を教育活動に生かし、内閣総理大臣賞を受賞しています。

# 行事・まつり

## ●中央地区コミュニティ

### 太夫塚どんど焼き

毎年1月14日に行われる地域行事です。トリ小屋を団子を刺したミズの木で囲い、五穀豊穣、無病息災、家内安全を祈願し、火をつけます。

### 太夫塚八木節笠踊り

太夫塚八木節笠踊りは、1924年(大正13年)この地に根付き、以来保存会を結成し、地元の小学生を対象に正統の八木節を指導しています。今では市内の様々な行事に参加しています。

## ●狩野地区コミュニティ

### 狩野地区コミュニティのどんど焼き

1年の厄を払うため、正月の門松やしめなわ等のお飾りを焼く小正月の火祭りです。毎年1月14日付近の土曜日に、狩野地区コミュニティと槻沢小学校児童たちなどが協力して行っています。残り火でミズの木にさした団子を焼いて食べ無病息災を祈ります。

### 雷神社の西富山獅子舞

江戸時代より、天災除け・五穀豊穣等の祈願のために神前に奉納されていましたが、1900年(明治33年)頃から断続的となりました。1990年(平成2年)3月に雷神社のお祭りにおいて復活し、その後は毎年例祭(3月第2日曜)や西那須野産業文化祭で披露されています。

### コミュニティ盆踊り

盆踊りは霊をなぐさめるとして行われ、昭和10年頃からは槻沢小学校で行われていましたが、現在は毎年8月15日に狩野公民館で行われています。太鼓の音に、踊り手の輪が広がり、会場にたくさんの夜店がにぎやかに立ち並びます。

### つきの木もちつき唄

大田原藩領11ヶ村当時から五節句などの特別な日や、棟上げ、屋根葺きの終わった祝いなどに唄い手に合わせて餅つきがにぎやかに行われていましたが、時代とともに姿を消してしまいました。現在は地区内で保存会が発足し、市や槻沢小学校の行事でもちつきを披露しています。

### ぼうじぼ

十五夜と十三夜に子供たちが各戸を回り、わら鉄砲で地面をたたきながら「大麦当たれ、小麦当たれ、三角畑のソバ当たれ」と唱えて豊作祈願をする伝統行事です。狩野地区では槻沢小学校の子ども会育成会が中心になって子供たちにわら鉄砲作りを教えており、学区内の地区毎に分かれて行っています。

### 芋串

昔の那須野が原は、ほとんどが畑作地帯で、里芋は主食がわりになる大事な食糧でした。味噌をつけ、竹串にさして囲炉裏（いろり）で焼き上げます。

### のっぺい汁

祝い料理として永く伝承されています。狩野地区（旧村部）では、鶏肉、人参、ごぼう、里芋、こんにゃく等を乱切りにし、だし汁で煮込み、酒、砂糖、しょうゆで味付け、片栗粉でとろみ付けして仕上げます。近年になって汁の具に生いか、焼き豆腐を使うようになり栄養豊富な鶏肉料理となりました。

## ●西地区コミュニティ

### 那須疏水施設見学

那須疏水の各種施設を見学することができます。見学を希望する場合は、施設を管理している水土里ネット那須野ヶ原（那須野ヶ原土地改良区連合）に直接申し込んでください。
【問い合わせ】☎0287-36-0632
水土里ネット那須野ヶ原　検索

### 新米祭り

「ふるさとにしなす産直会」のそすいの郷直売センターでは消費者の方々への感謝をこめ、実りの秋の行事として毎年9月の最終日曜日に新米祭りを開催しています。祭りでは地場産の新米で特別栽培（コシヒカリ）でにぎったおむすびを先着順でプレゼントしています。

### 繭だんごづくり

「ふるさとにしなす産直会」では新年を迎えると1月7日にミズノキの枝に農産物の豊作を祈る繭玉飾りをします。繭だんご(繭玉)は上新粉(米の粉)を使用し、数千個つくりますので、興味のある方は是非見に来てください。

## ●三島地区コミュニティ

### 三島神社盆踊り・例大祭

盆踊りは、毎年8月15日に神社境内で、また、例大祭は、毎年10月第2日曜日に神社建立以来の秋祭りとして行われています。三島3地区合同で行い、神輿、子供神輿、山車も繰り出します。

### 三島地区どんど焼き

家庭から持ち寄られたしめ飾りや松飾りなどを竹で作った酉小屋の中に入れて焚き上げ、その火にあたったり、団子を焼いて食べることにより無病息災・家内安全・五穀豊穣を願うという伝統行事です。三島神社において毎年1月に行われています。

### 田んぼの学校

水土里ネット那須野ケ原（那須野が原土地改良区連合）を中心に田植え唄に合わせて手植えする田植体験や、田の草取り、メダカ池づくり、稲刈り、収穫祭などを三島小学校の子供たちと三島コミュニティが一緒に行っています。

### 那須苗取り田植唄保存会

那須地方に古くから伝わる田植唄は、1955年（昭和30年）頃まで田植えの作業唄として唄われていました。この伝統を保存するために、1992年（平成4年）に田植唄保存会が発足し、各種イベントや「田んぼの学校」で唄を披露しています。

### 三島おはやし保存会

保存会は、三島神社のお祭りのお囃子を三島地区でやろうと1987年（昭和62年）に太鼓好きが集まり、太鼓会として発足しました。現在は、各種イベントで披露するほか、伝統芸能として継承していくため、地元小学生にお囃子の指導もしています。

### 那須疏水体験学習

那須野が原博物館を見学に訪れる学校に対し、博物館学校支援ボランティア「石ぐら会」が行っている水汲み体験です。体験を希望される場合は、事前に那須野が原博物館にお申し込みください。

【問い合わせ】☎0287-36-0949

那須野が原博物館　検索

### 那須野が原入門講座

学校支援ボランティア「石ぐら会」では、那須野が原の地質や自然、開拓の歴史、交通の発達、会の活動などをテーマとして講座を開催しています。

### 開拓史跡めぐり

博物館学校支援ボランティア「石ぐら会」では、那須野が原の開拓史跡めぐりを、那須塩原市開こん記念祭の行事の一環として行っています。

## ●横接地区コミュニティ

### 愛宕神社のお祭り

1930年（昭和5年）頃までは長祭りとして3日間行われ、近隣からたくさんの参拝者が訪れて、にぎわいを見せていたとのことです。現在は、毎年5月24日の1日だけ参道口に1対の幟を掲げ、神官、村役、氏子が代表して参拝しています。

### 接骨木のお地蔵様

接骨木公民館にあるお地蔵様は、子供が無事に生まれたお礼に赤い帽子とエプロンを着せられています。毎年、1月24日と8月24日に子供の誕生や健やかな成長を願う念仏を地蔵様に唱えます。以前は、「ばんごもらい」といって念仏の後に子供たちに団子を配っていたそうです。

### 温泉神社のどんど焼き

毎年小正月（1月14日）に正月のお飾りや門松などを集めて、接骨木の温泉神社近くに作ったトリ小屋で焼き、その火にあたり、米粉で作った団子を焼いて食べることにより、無病息災を祈る行事です。厄年の人は、皆に厄を拾ってもらおうと、ミカンやお餅、菓子をまきます。

### 八坂神社のお祭り

八坂神社のお祭りは、毎年7月14、15日にかけて行われます。

### 温泉神社の風祭り

接骨木の温泉神社で、農作物が収穫前に台風や強風の被害にあわず無事収穫できるように毎年9月の第1日曜日に行われる行事です。

### 温泉神社のお祭り

接骨木の温泉神社で、毎年11月1日に氏子総代が集まり、集落の人たちの安全と希望に満ちた幸を祈願します。

## ●大山地区コミュニティ

### どんどん焼き

1年の厄をはらうため、正月の門松やしめ縄等のお飾りを子供たちが集めて焼く小正月の伝統行事で、毎年1月14日に大山地区コミュニティと大山小学校の児童たちが協力してコミュニティセンターで行っています。真っ赤な炎が夜空を焦がす光景は、大変見事です。また、残り火でミズの木に刺した団子を焼いて食べ、1年間の無病息災を祈ります。

# 各地区の名人たち

## ●西地区コミュニティ

### 竹工芸名人　井上守人（いのうえ もりと）

井上さんは1992年（平成4年）から竹工芸家八木沢正氏の竹芸教室に通い竹工芸を始めました。1998年（平成10年）に栃木県芸術美術展に初入選し、全国竹芸展においては、2000年（平成12年）に手提げ籠「装」がデザイン賞、翌2001年（平成13年）に手提げ籠「雅」が優秀賞を受賞。その後数多くの賞を受賞し、最近では2016年（平成28年）にも竹あかり「なごみW4S」でデザイン賞を受賞しています。

## ●大山地区コミュニティ

### ひょうたん絵付け名人　倉田利久（くらた としひさ）

倉田さんはひょうたんに七福神や龍などの絵を描く名人です。もともと絵を描くのが好きだった倉田さんは、ふとしたきっかけからひょうたんに出会い、絵付けを始めました。水性ペンキで色付けし、日々楽しみながら作品作りに励んでいます。

# 水が拓く緑の夢空間
# 那須野

**水と開拓の歴史に育まれた豊かな大地**

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会

田園空間博物館　検索

令和6年1月改訂